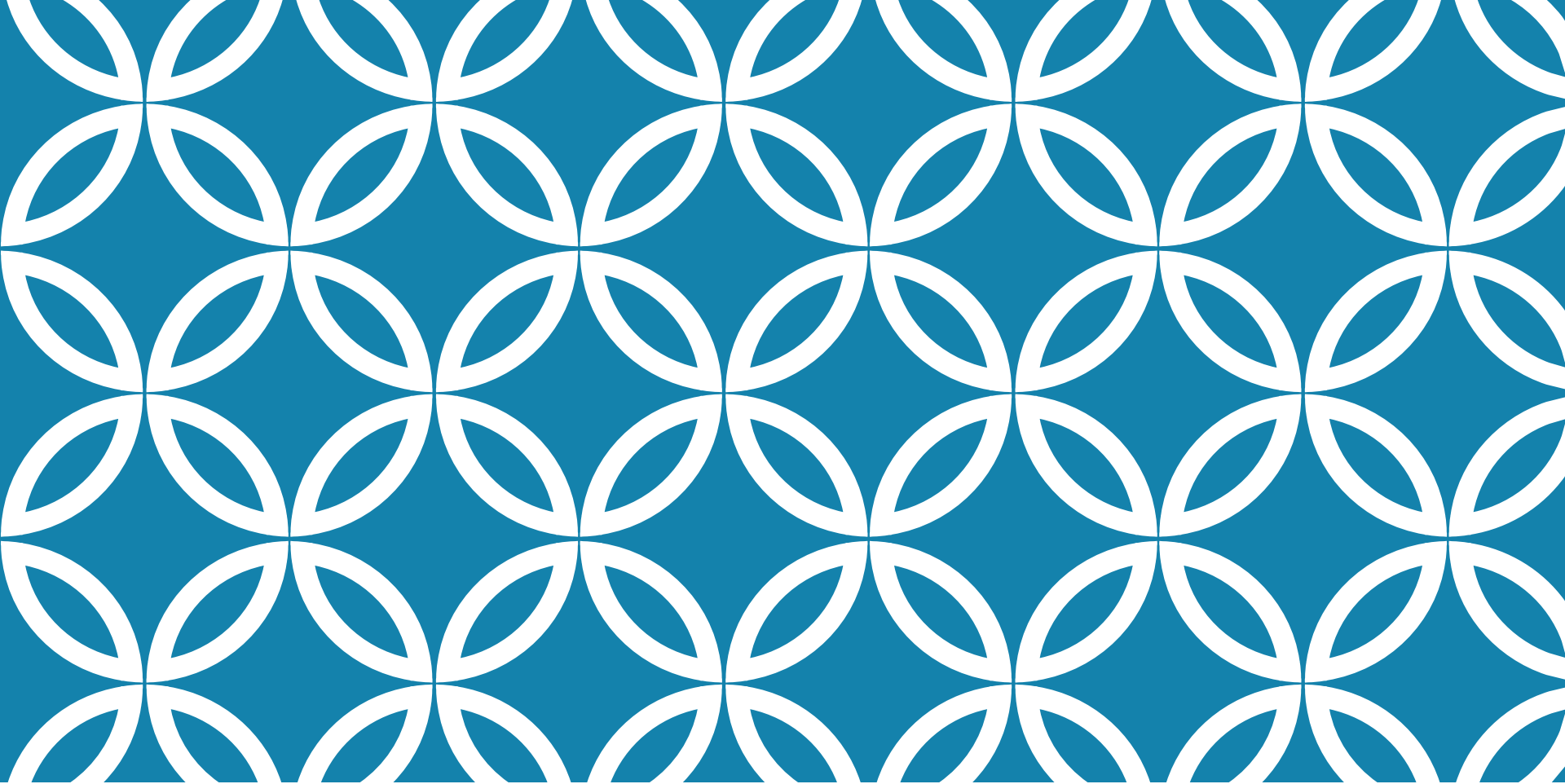




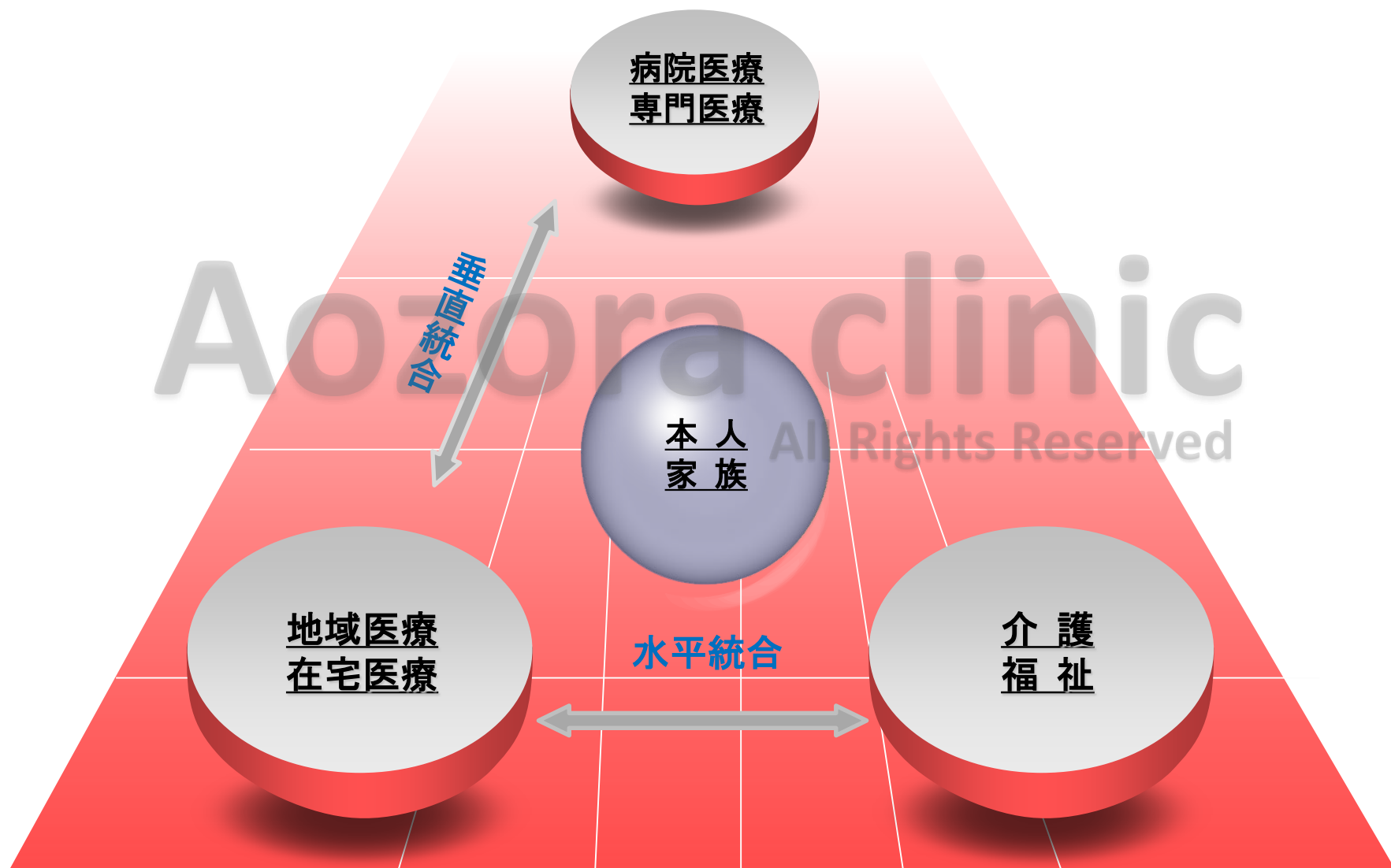
日本在宅医学会20回記念大会 在宅ジェネラリスト養成講座1

水平統合 と 垂直統合

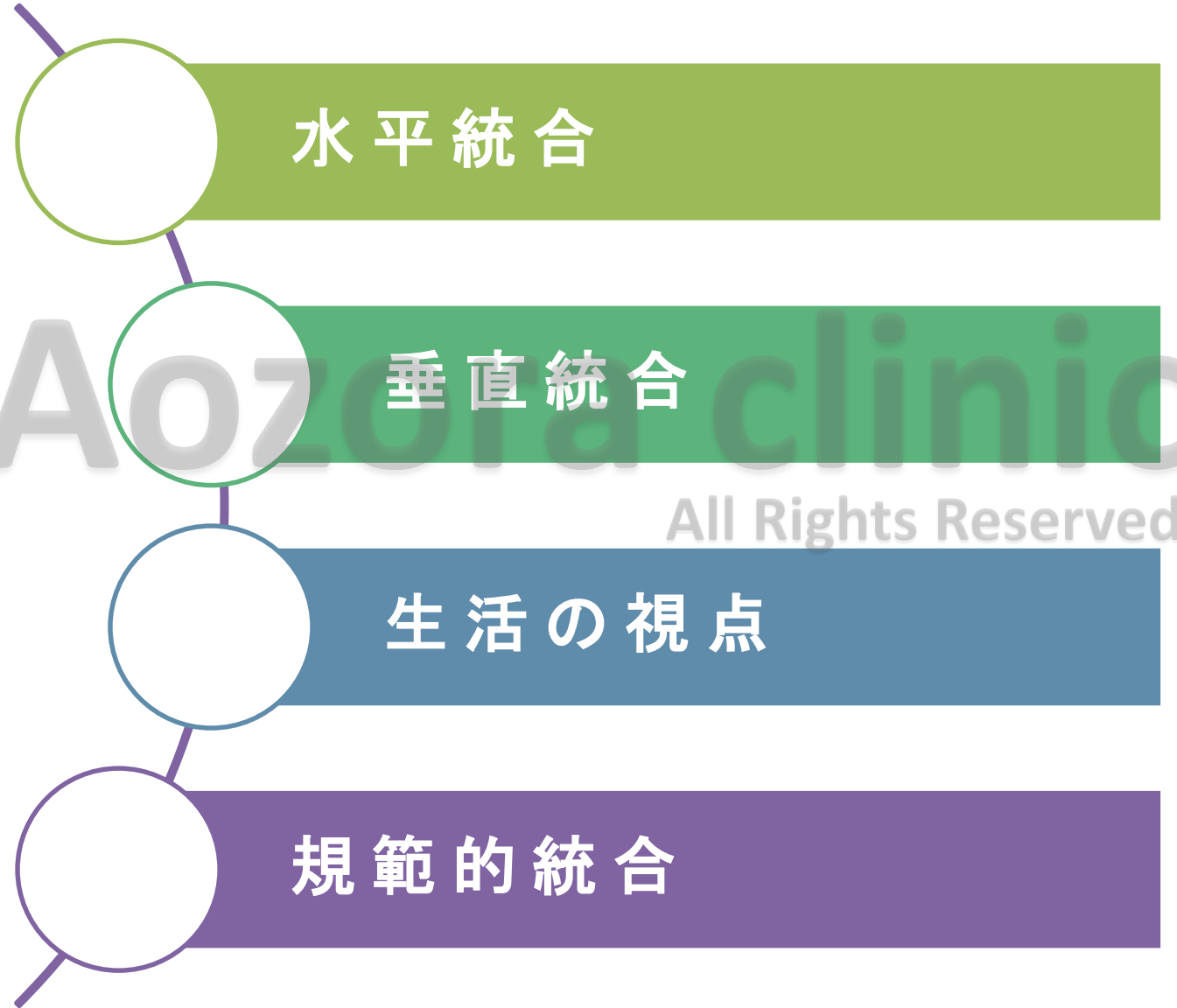
～地域における規範的統合を目指して～

2018年4月29日
あおぞら診療所
川越 正平

地域における水平統合と垂直統合を推進する



本講義の内容



水平統合

垂直統合

生活の視点

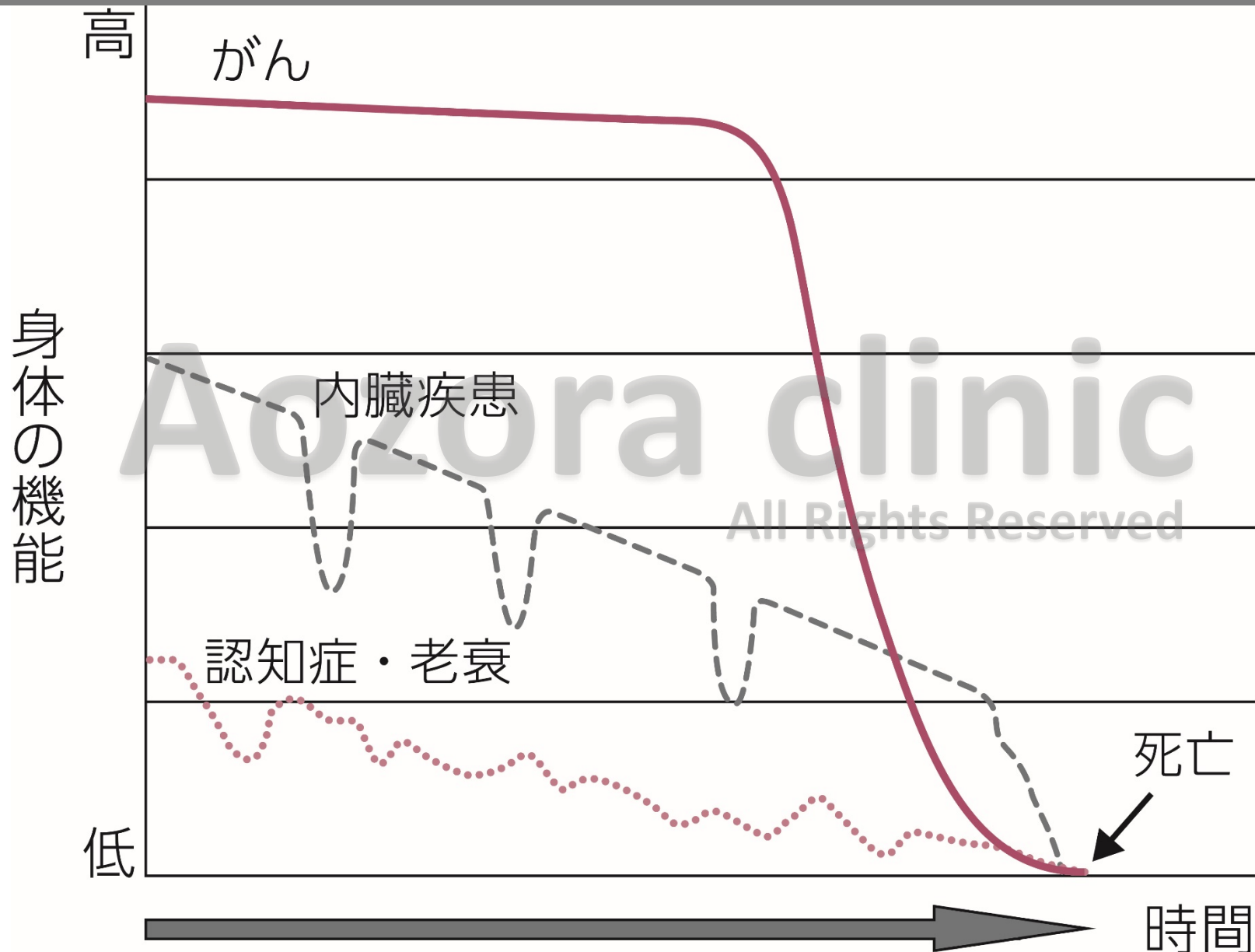
規範的統合

All Rights Reserved

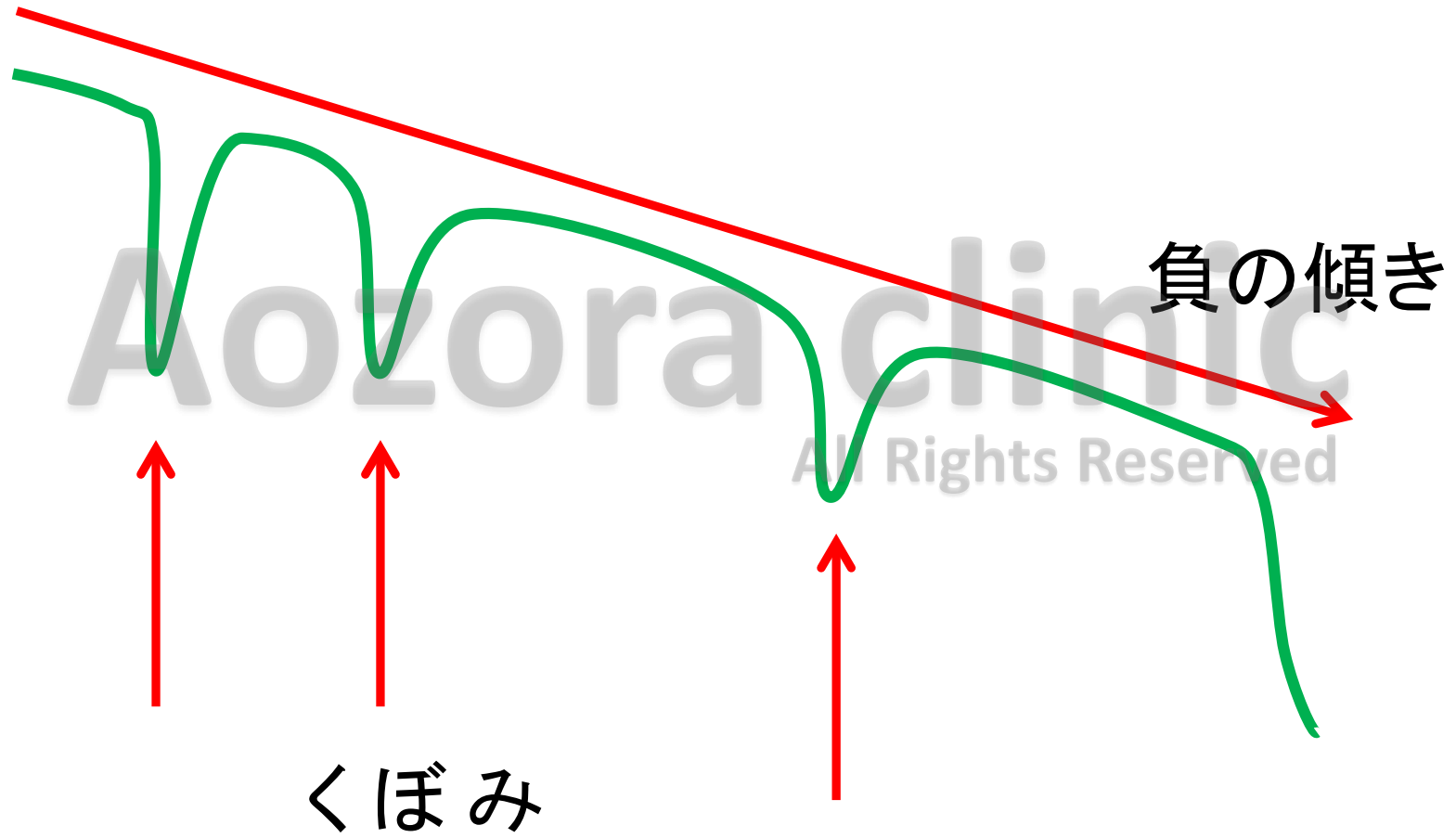
水平統合

3つの軌道

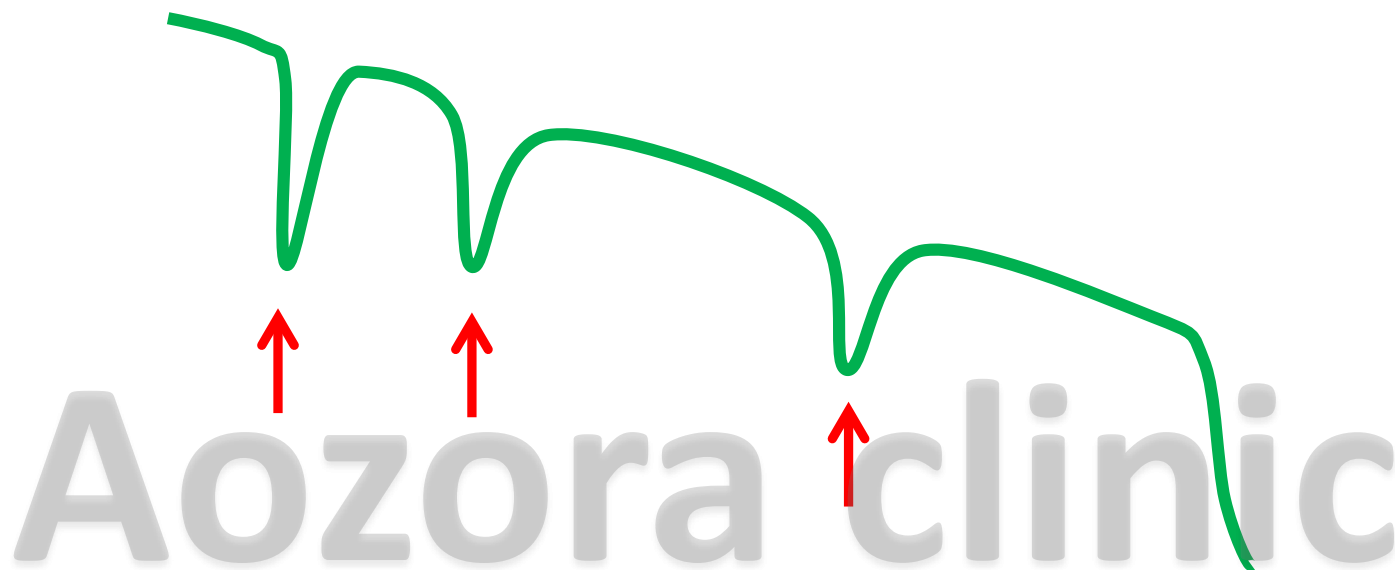
Lynn J. Serving patients who may die soon and their families. JAMA 285(7), 2001



軌道における“くぼみ”と“負の傾き”



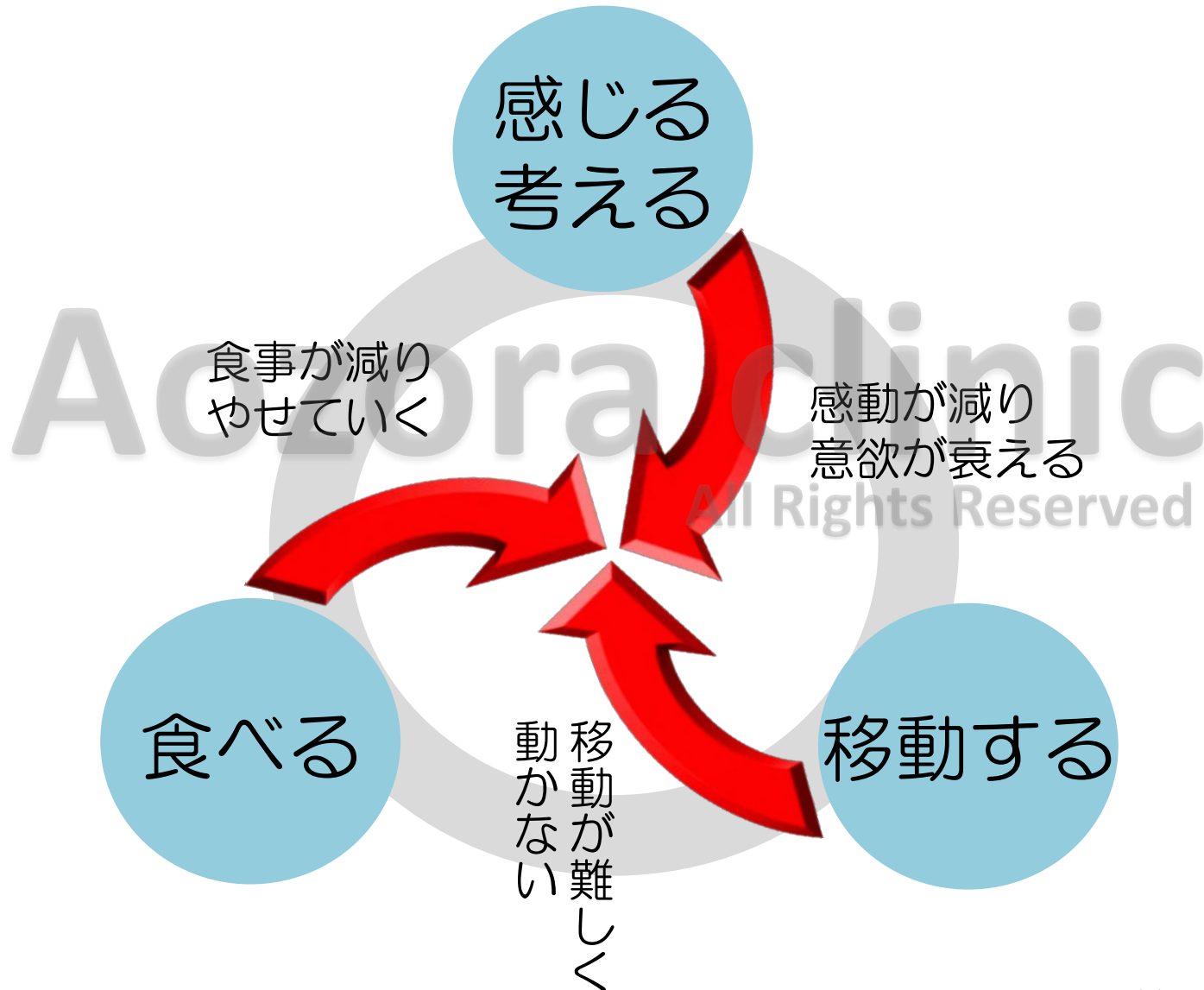
“くぼみ”を生じる事態



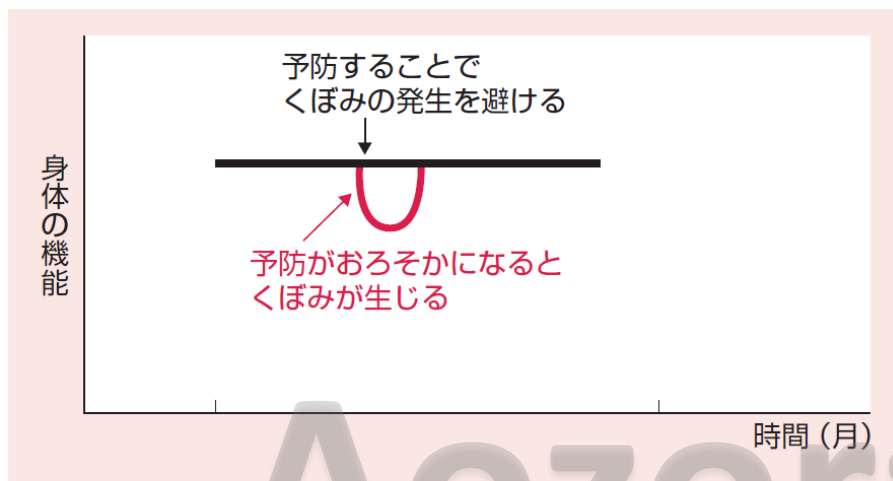
- 急性合併症（肺炎や脱水など）
- 転倒等の事故（骨折を含む）
- 原疾患の再発（脳梗塞など）
- 合併症の急性増悪（心不全や腎不全など）

“くぼみ”を未然に防ぐ多職種の間わりが重要

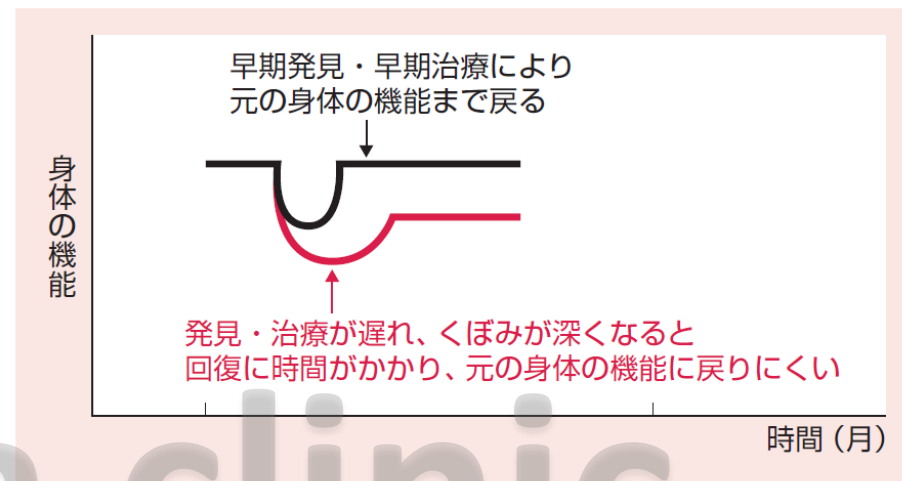
“負の傾き”を生じる要因



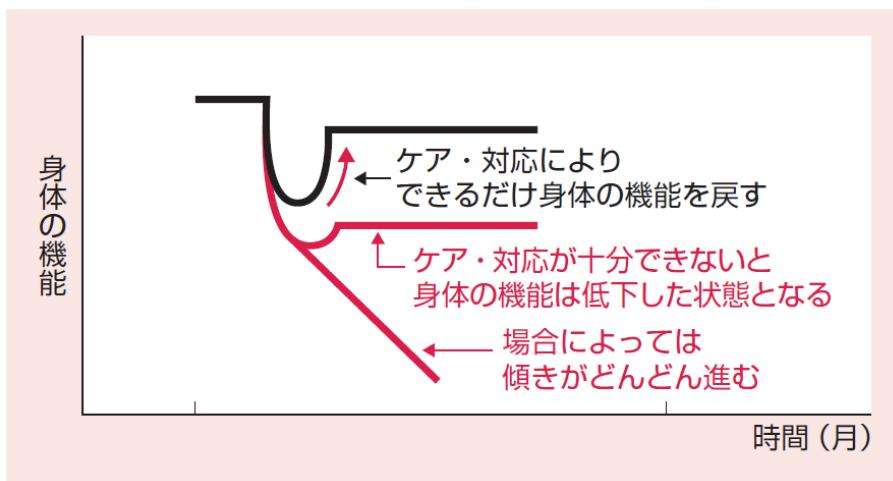
“くぼみ”の予防や早期対応と“負の傾き”の緩和



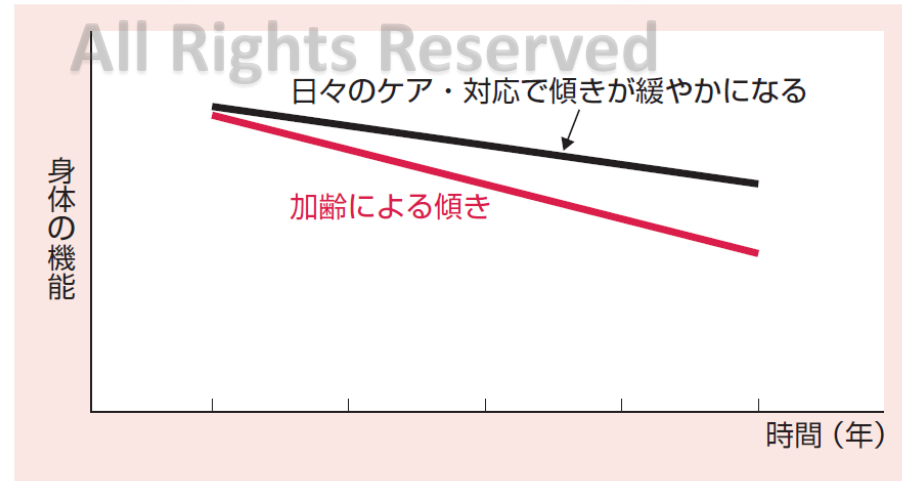
ケア・対応で「くぼみ」の発生を予防する



観察による早期発見・早期治療



ケア・対応で「くぼみ」を浅くする



日々のケア・対応で変化する「傾き」

誤嚥性肺炎を生じた要介護者に必要な対応

医療

肺炎に対する抗生剤投与
酸素投与

介護

摂食嚥下障害に応じた食形態
食事摂取時の座位姿勢（シーティング）
食事介助の技術
高次脳機能への刺激

多職種
協働

全身の筋力維持強化や関節拘縮の防止
摂食嚥下リハビリテーション
歯科治療や口腔ケア
低栄養状態改善のための栄養介入

病気を“生活障害”ととらえる

要介護者等に発生しうる誤嚥性肺炎や骨折、褥瘡等の急性疾病は、さまざまな因子が絡み合っ
て生じる“生活障害”だととらえるべき

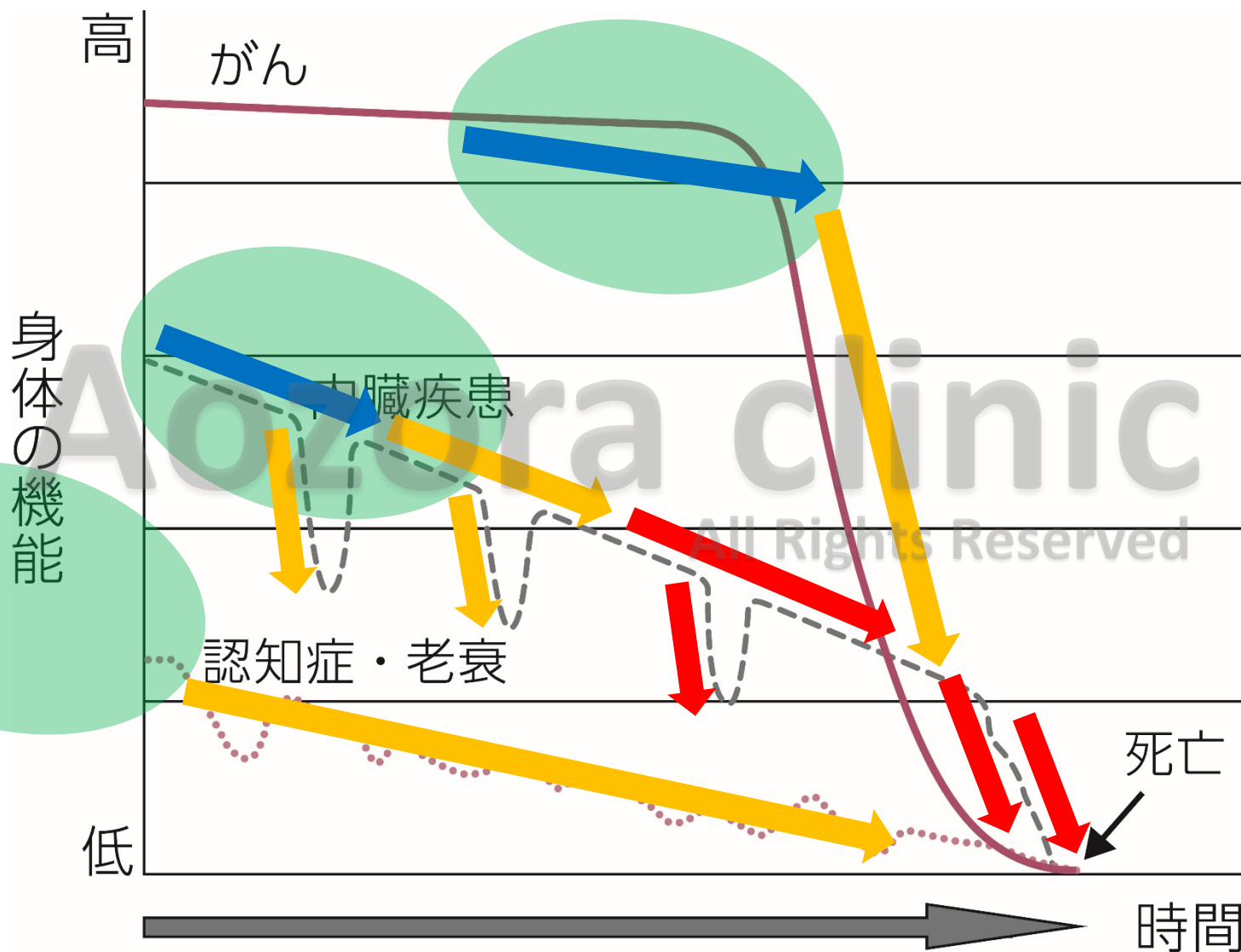
- 身体機能低下や痛み由来する生活不活発
- 歯科疾患や口腔ケア不足による口腔衛生悪化
- 栄養の不足や偏り
- 脳への刺激の不足
- 住環境や家庭背景に問題を抱えている

肺炎の治療を始めるべき時期はいつか？

肺炎対策の成否の8割は発症までに決している



「疾病の軌道」を踏まえた医療や意思決定支援



Lynn J. Serving patients who may die soon and their families. JAMA 285(7), 2001

医療と介護の統合

医療は、介護が把握している膨大な生活情報をリアルタイムに医療介入へ反映させる

尿失禁や食事中のむせ、夜間せん妄など必ずしも診察時に観察できない生活情報を介護から得ることによって、例えば薬剤の副作用に由来すると判断しうる

All Rights Reserved

介護は、医療が治療方針や未来予測などの動的視点を提示することでケアの方向性をつかむ

病態がもはや回復不能であり終末期が近づいたという医療の判断をもとに、栄養やリハビリの介入、介助方法などについて緩和ケアの観点からケアを再構築する

医療と介護の統合

生活情報に基づく状態変化の把握が
診断や対応方針の立案に役立つ

医療

疾病の軌道

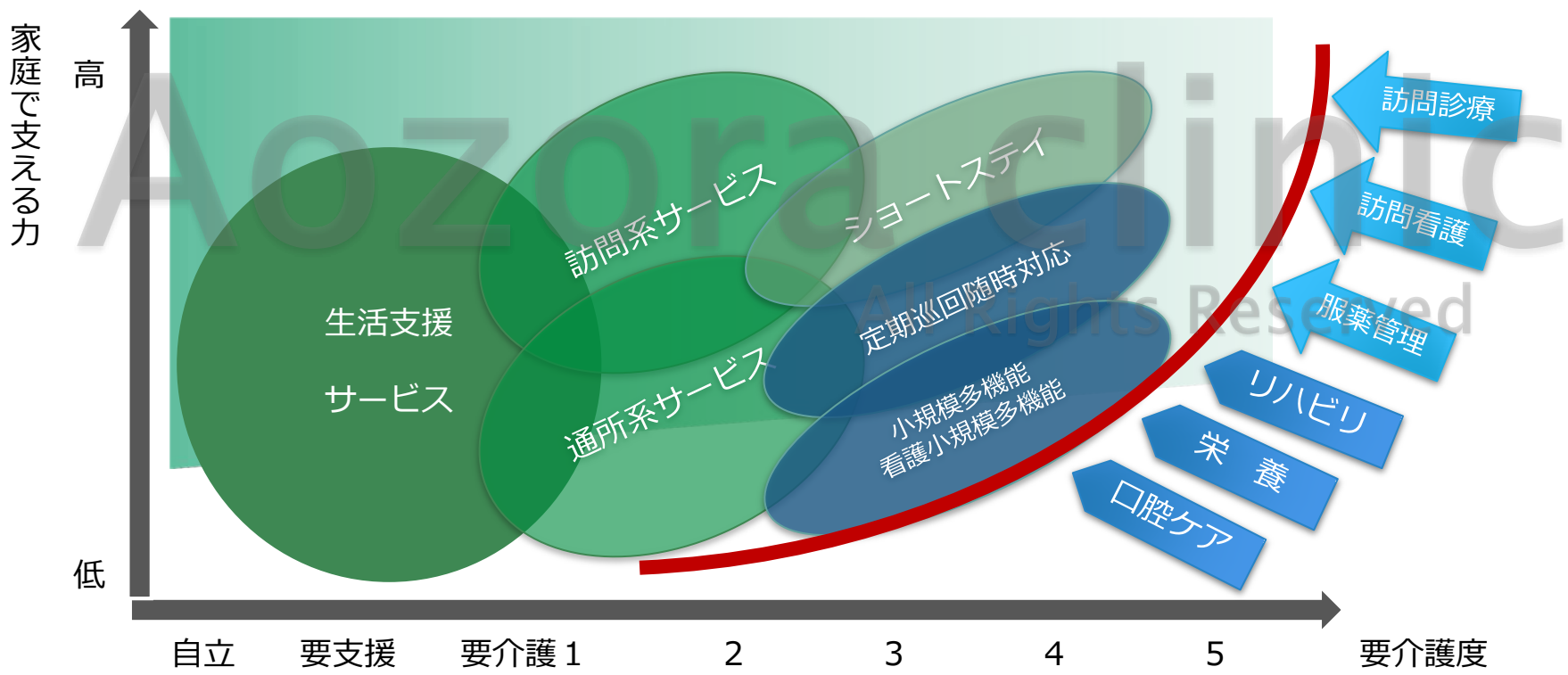
介護

生活の視点

未来予測と意思決定の支援に基づき
生活や人生の方向性を定める

在宅限界点を高める居宅サービスや医療系サービス

〈ときどき入院、ほぼ在宅〉
〈おおむね在宅、ときどき施設〉



様々な居場所が生ある限り暮らし続ける場となる 地域に居住する限り必要な医療や介護を提供する

在宅だけではない地域の住まい

グループホーム
有料老人ホーム
サービス付き高齢者住宅
特別養護老人ホーム
老人保健施設

居住系
施設

紹介元
病院

ときどき入院、ほぼ在宅

地域包括ケア病棟
回復期リハビリテーション病棟

後方支
援病院

地域
在宅

在宅限界点を高める

小規模多機能型居宅介護
看護小規模多機能型居宅介護
定期巡回随時対応型居宅介護

多様な
サービス

緩和ケ
ア病棟

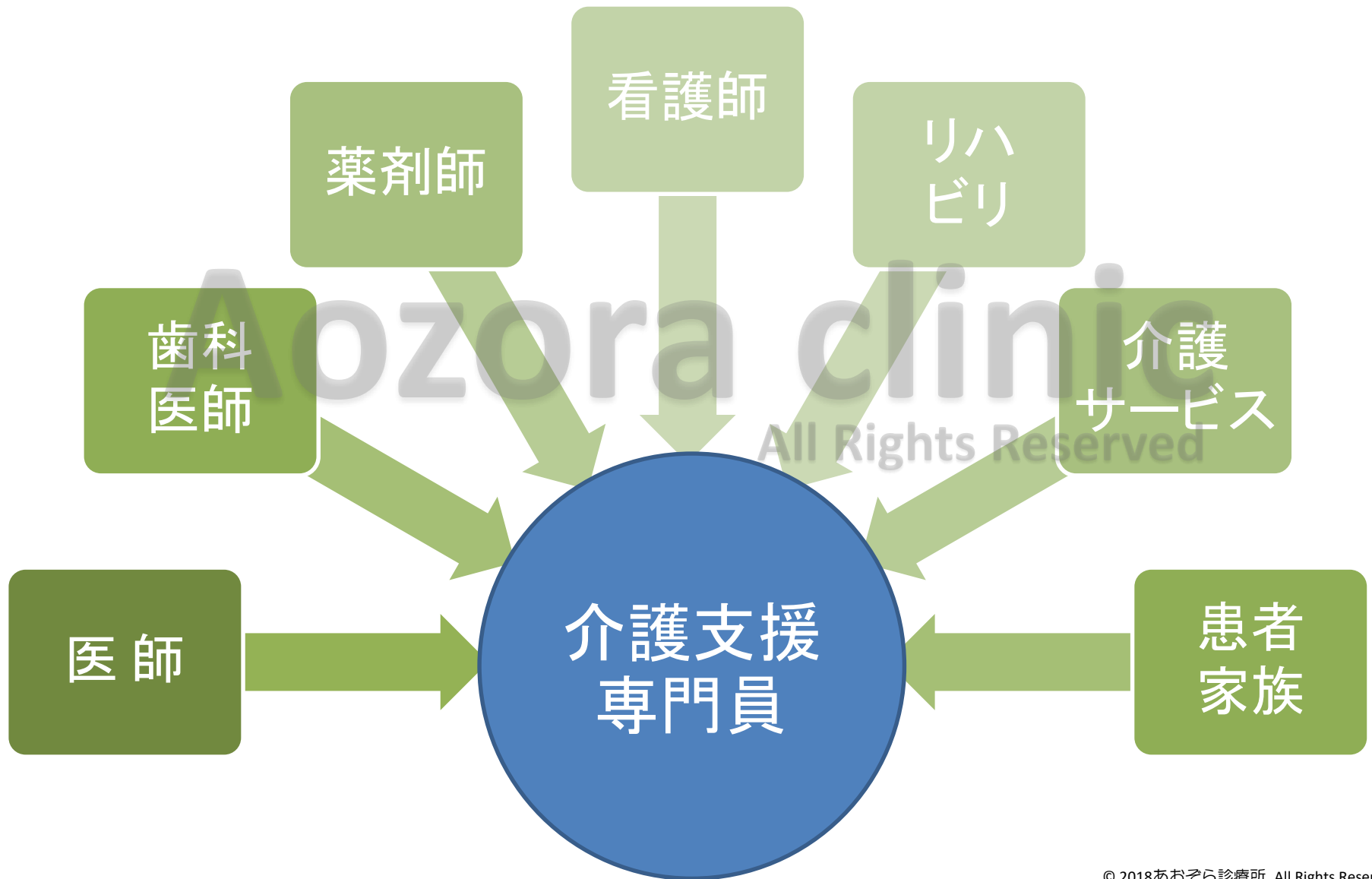
	総死亡	病院・診療所	老健施設	老人ホーム	自宅
2005年	1,083,796人	892,919人	7,346人	23,278人	132,702人
2016年	1,307,748人	990,640人	30,713人	90,067人	169,400人

4.2倍

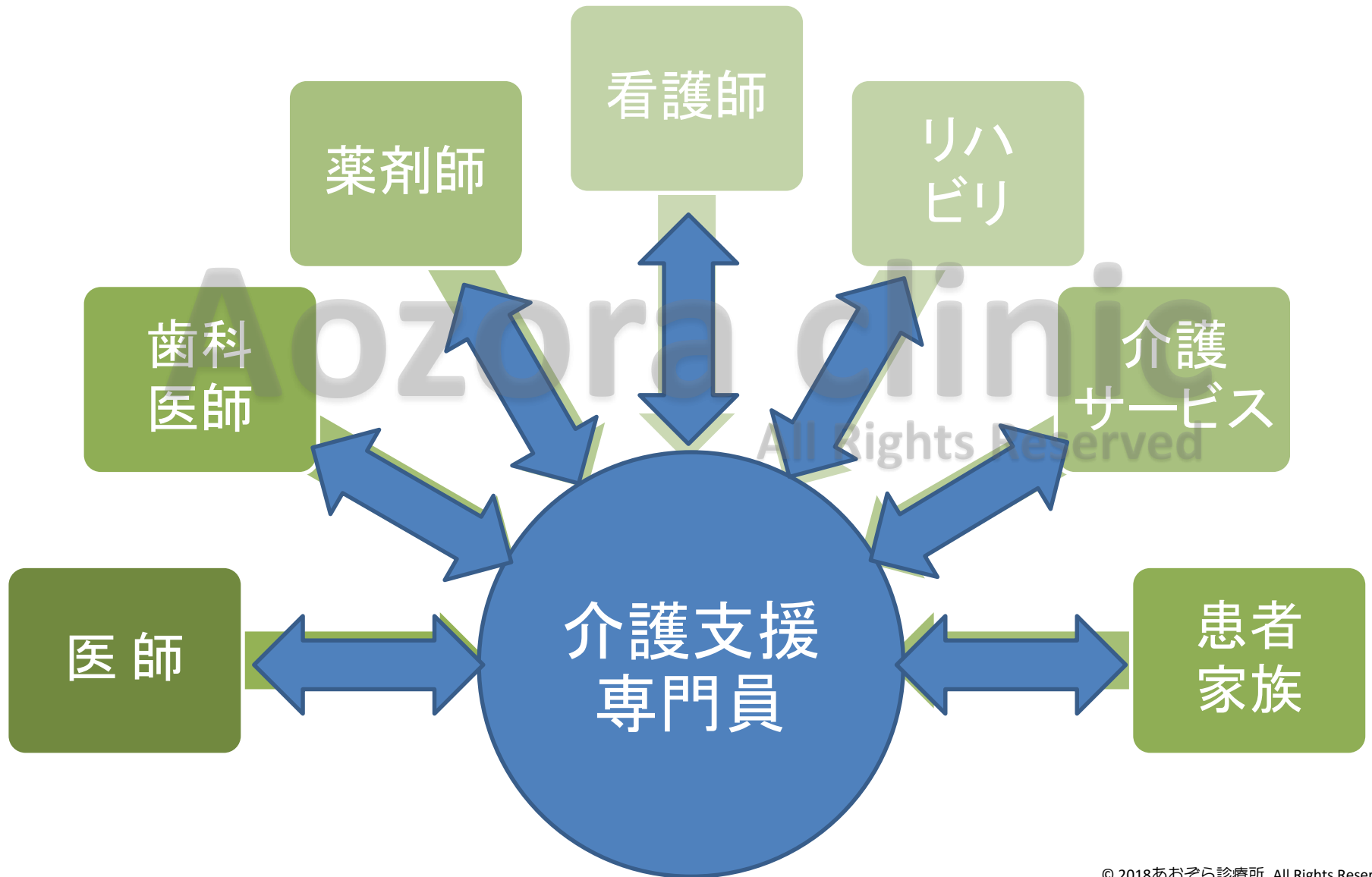
3.9倍

1.3倍

介護支援専門員に情報が集まる



介護支援専門員が果たす“ハブ機能”



垂直統合

がん治療医と在宅医が伴走する「二人主治医制」

疾病理解・セルフケア
情報提供・相談対応

家族ケア・ピアサポート
意思決定支援(ACP)

病院緩和ケア

在宅緩和ケア



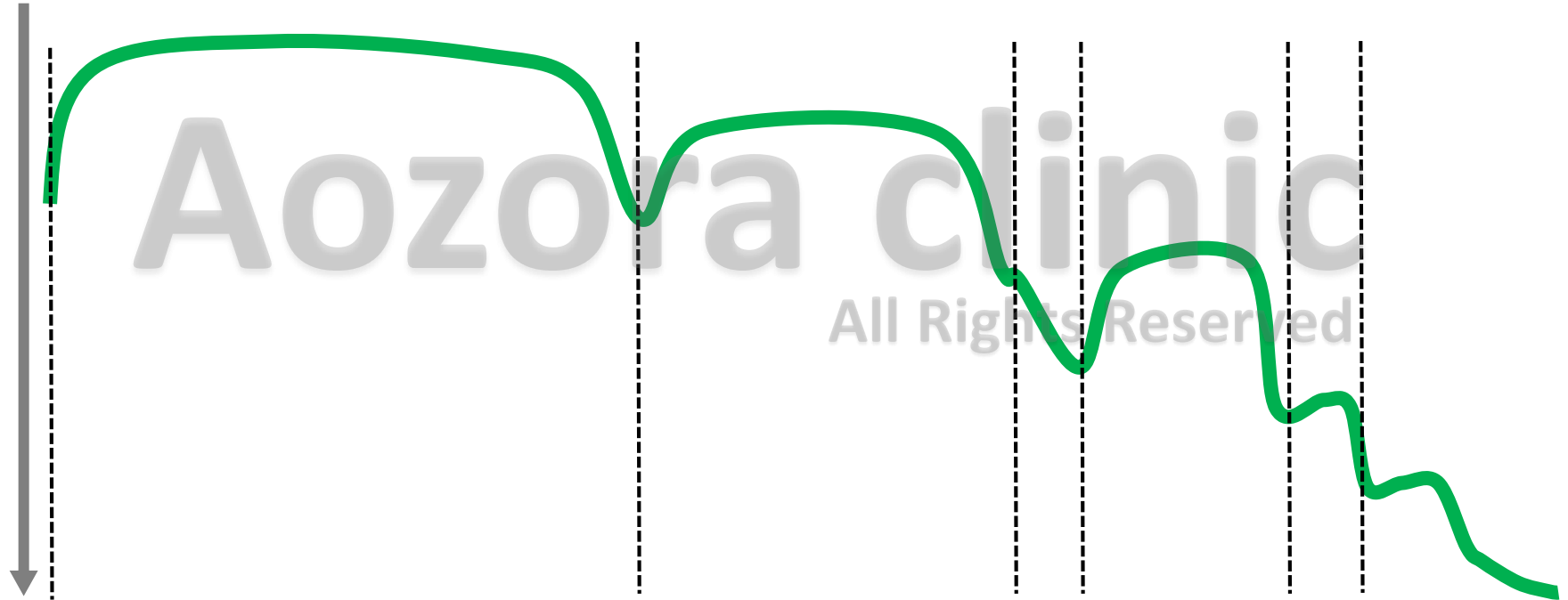
がん治療 化学療法①

化学療法②

③

④

がんの進行



腫瘍内科医



緩和ケア医



在宅緩和ケアに取り組むかかりつけ医



がん患者が必要としている支援

1) 疾病や症状に関する理解を助ける

- がんの特徴や症状、治療の副作用など

2) 自己管理の方法を知り、日々の生活に活かす

- 起こりうる症状変化への対処やがんと共存する考え方(セルフケア)

3) 情報収集を支援し、その質を吟味する

- 食事のこと、先進治療や治験から民間療法に至るまで

4) 患者家族の不安や相談を受け止め、孤立を防ぐ

- 就労や治療費などに関する相談や、患者同士の交流の場紹介など

5) Advance Care Planning に関する継続的な支援

- どこでどのように過ごしたいか、命の尊厳についてなど

二人主治医制：病院医師とかかりつけ医

- 糖尿病や慢性腎臓病など慢性疾患の管理
- 発熱など併発症のトリアージや初期対応
- フォローアップ採血の分担
- 一時的に必要な輸液

- * 皮膚科コンサルト等と同様に地域という“科”と連携する
- * 化学療法施行中や神経難病診断後の早い段階からかかりつけ医を構えて、何らかの役割を分担する
- * 相談のもと、両者の間の役割分担や主治医機能の軽重は柔軟に受け渡すことが可能

病院の外来診療チームにかかりつけ医を加える意義は大きい

早期から伴走すべき外来患者は誰か

心身の条件

- 認知機能障害を有する
- 重大な他疾病をもともと合併している

家庭背景

- 独居や高齢者のみで構成される世帯
- 経済事情や家族関係に困難を有している

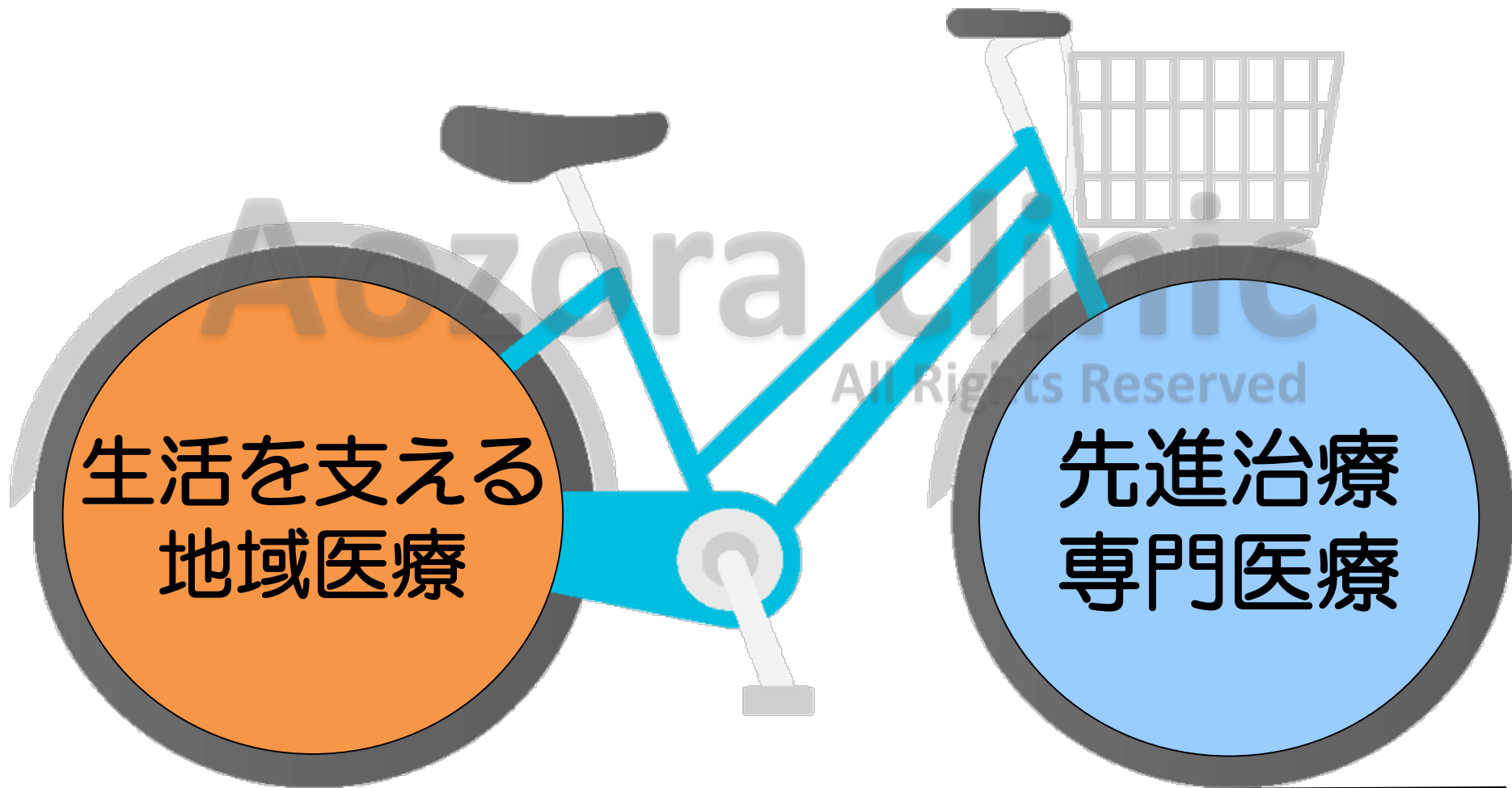
居住地域

- 通院に1時間以上を要する
- 医療資源の乏しい地域に居住している

心身の変化

- 通院に車いすや家族同伴が必要になった
- 医療処置や訪問看護が必要になった

現代の医療は一人の医師が先発完投できない
かかりつけ医を副主治医として構える二人主治医制



生活の視点

生活の場で診療を行う強み

疾病

生活

食事

排泄

睡眠

移動

清潔

喜び

入院中に把握している患者情報

症状や副作用

- 痛み・呼吸苦etc
- 治療の副作用
- 服薬アドヒアランス

心理状態

- 不安・悩み
- 意識状態
- 家族背景
- 社会背景

合併症

- 主疾患関連
- 併存疾病関連

食事・睡眠

- 量やバランス
- 食欲・体重変化
- 睡眠：量と質

排泄・清潔

- 尿：量や性状
- 便：回数や性状
- 入浴や口腔ケア

心身状況

- 体力・筋肉量
- 歩行・移動能力
- 不安・喜び

病院医師が外来で網羅的に把握して、包括的にアドバイスすることは難しい

食事の実際や内容を把握する



肉



卵



牛乳



油



魚



大豆



緑黄色野菜



芋



果物



海藻

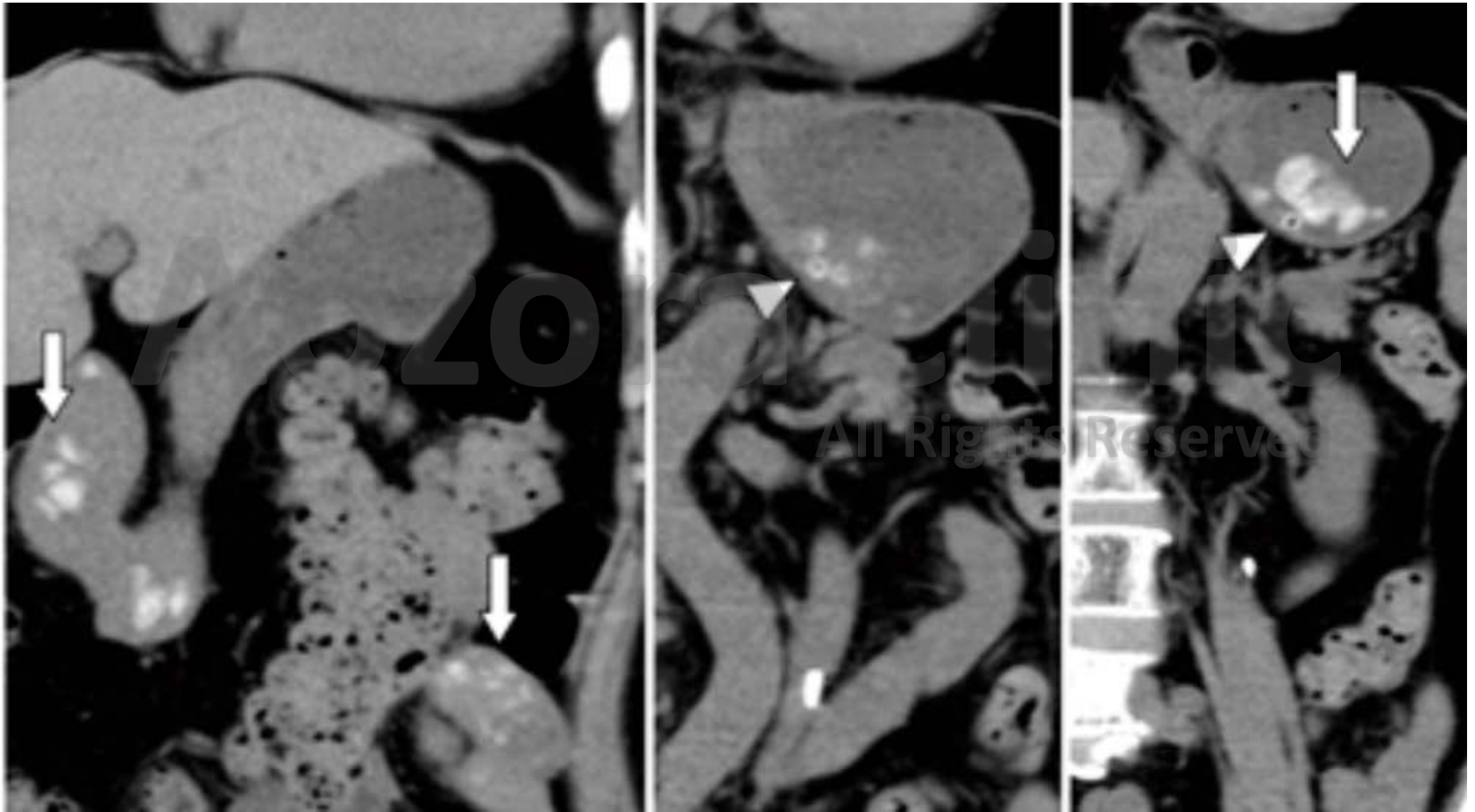
4/10

評価

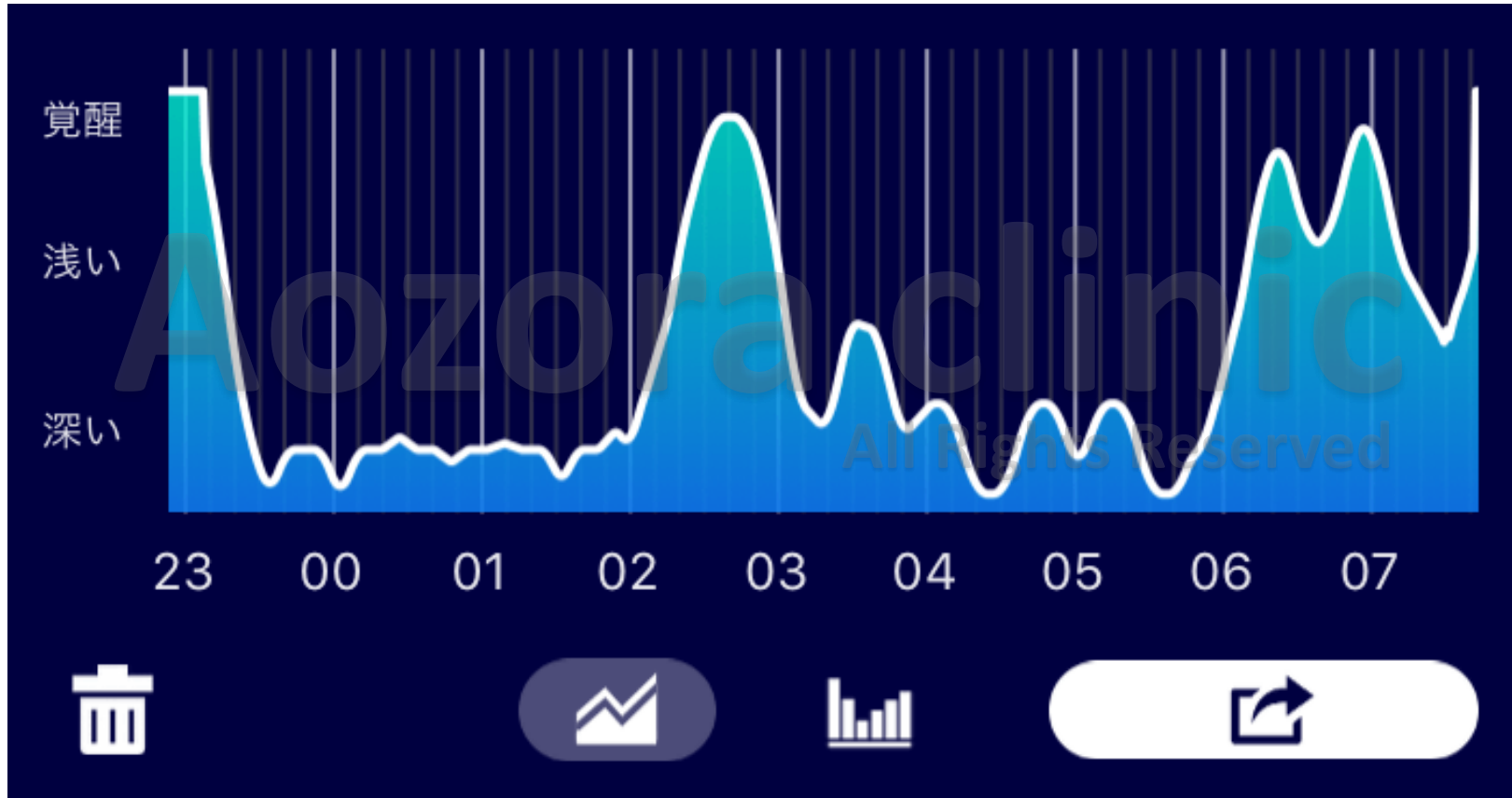
一覧へ

	肉	卵	牛乳	油	魚	大豆	緑黄色野菜	芋	果物	海藻	計
08月											5
09火											10
10水											7
11木											4
12金											0
13土											0
14日											0
計	1	4	3	2	4	3	3	3	2	1	26

食物や糞便により消化器症状を生じうる



睡眠覚醒リズムや眠りの質を把握する



身体機能や転倒リスクを把握する



骨 格

姿 勢

移 乗

触覚
位置覚



関 節

可動域

歩 行

バランス
方向転換



筋 肉

痛 み

またぎ

高次脳機能
注意力

喜びや人生観、人間関係を把握する

この一週間で最も遠くに行ったのはどこか

- 生活空間の広がりを把握する

最近、最もうれしかったことを尋ねる

何らか見出したことについてほめる

心配なこと、困っていることを尋ねる

- 喜びや不安について会話を重ねる

一番信頼して相談できる人は誰か

- ACPにおける代理意思決定者たり得る

診療における“生活の視点”の例

口腔内を観察し、水飲み試験・フードテストを行う

体重を測定し、長期にわたる推移を把握する

腹部を触診し、便塊を意識して触れる

睡眠覚醒リズムや身体活動・日照を把握する

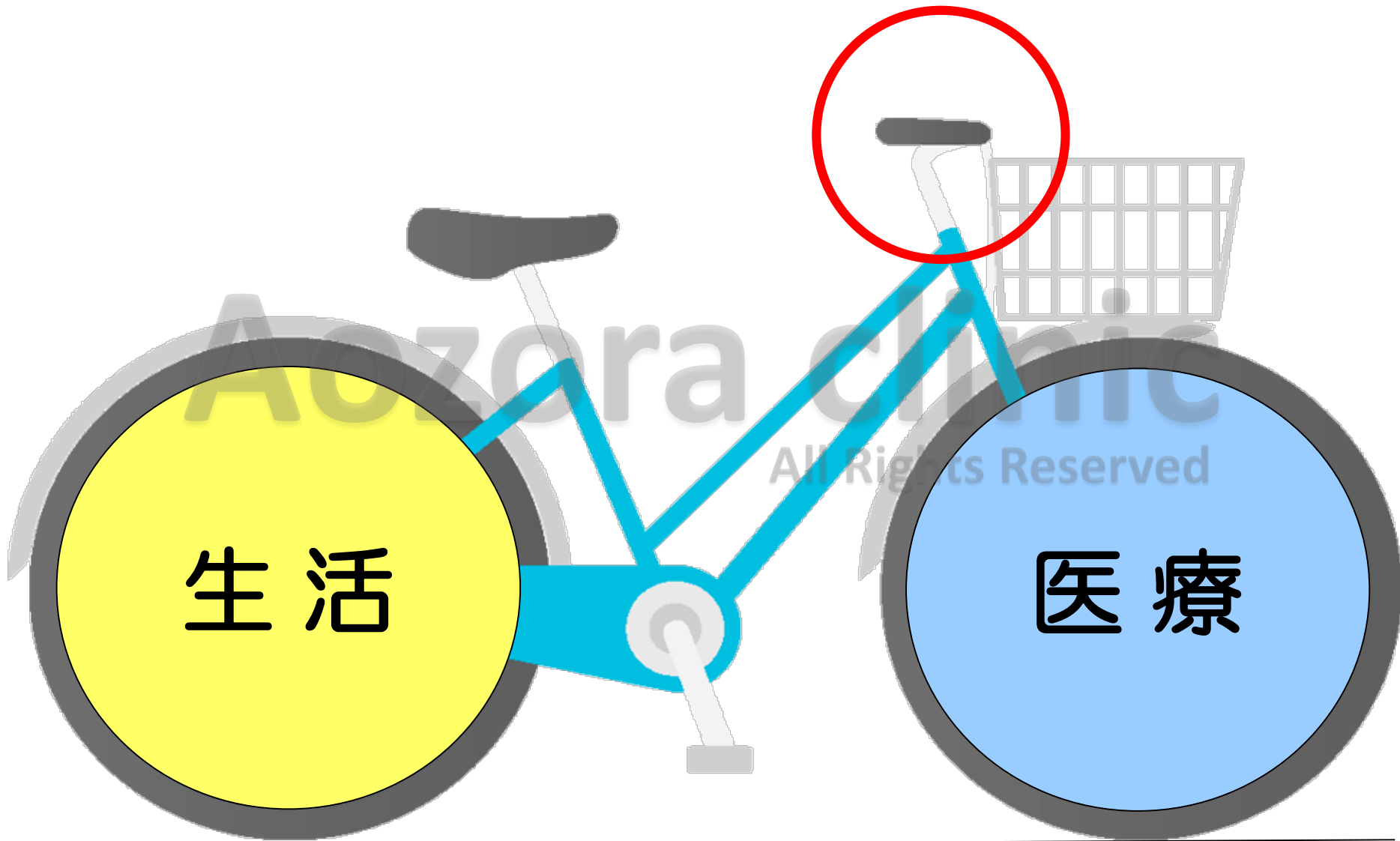
起居動作やトイレ歩行、入浴方法を把握する

生活空間の広がりや人との交流について尋ねる

本人家族のセルフマネジメント能力を見極める

規範的統合

医療に「生活の視点」を取り戻す鍵が在宅医療



介護、病院、行政、市民に働きかけて 地域における規範的統合を図る

